



代表取締役社長/CEO

岡部 鉄也

Top トップメッセージ Message

自らのパーパスを見直し、
新たな企業価値を次世代に継承することで
お客様、地域・社会、そして社員に
愛される企業を目指します。

高度な品質管理、安心・安全、モノづくりの考え方を強みとして

初めに、私たちシーシーアイの事業の特色と取り巻く環境について、ご説明させていただきます。当社は、長年の自動車メーカーとの取引で培った高度な品質管理、安心・安全、モノづくりの考え方を強みとして成長してきました。また、住宅メーカーとの取引では、快適性の追求においても高い優位性を有しています。これらのメーカーの販売チャネルもしっかり確保し、例えば自動車メーカーにクーラントやブレーキフルードを納入する際、カーケア用品なども同じチャネルを活用することで、効率化を図っています。商品面では、高度な品質管理に加え、コストダウン、改善能力にも高い優位性を有しています。私たちは、これらの強みを活かしながら、お客様にしっかり価値を見ていただく顧客第一（Customer Focus）を貫き、商品第一主義による事業を展開しています。

私たちを取り巻く経営環境は、100年に一度と言われる自動車業界の大変革のただ中にあり、CASE^{*}時代の到来に向けて、さまざまな対応を迫られています。電動車両（EV）への対応も早くから強化しており、エンジンもガソリン車からEVへと変化していく中であっても、当社製品のクーラントは必要とされ、特性は変わっても自動車メーカーとの取引は継続していきます。また、EV開発で先行する

*CASE: 「Connected (コネクテッド)」「Automated/Autonomous (自動化)」「Shared (シェアリング)」「Electric (電動化)」

欧米メーカーとの取引で培った技術を国内に展開するなど、今後、EVに参入する他業種との取引も視野に、ビジネスチャンスの拡大に努めています。

現在、世界で拡大する環境問題により、製品の原材料も化石由来からバイオ由来への転換が求められていますが、これは私たちにとって逆にチャンスになると捉えています。当社ではバイオ由来の原料探索やリサイクルに早くから取り組むなど、スピード感を持って臨んでいます。大切なことは、このスピード感であり、これが競争力を生み出します。何が競争力かをつねに念頭に置き、品質、コスト競争力等、どこに付加価値をつけるかを追求し続けることが重要です。だからこそ、他に先駆けて取り組み、その結果として企業価値を高めて、社員の成長を促すことが可能になります。こうした考え方、行動力を次世代につなぐ風土にしたいと考えています。

目標を明確にし、 スピード感を持って取り組むサステナビリティ経営

私たちは、目指すべき社会（2050年）の実現に向け、ESG重視の経営を精力的に進めています。2022年度は、投資委員会、コンプライアンス・リスク委員会、情報セキュリティ委員会で構成されるサステナビリティ推進委員会のもと、環境、人権などに関するKPI[※]に基づき、着実に取り組みが進んだと評価しています。事業部・部のKPIと連動し個人にもKPIを設定し、目標を明確にすることで各自が自己評価できる仕組みを整備しています。私は、この取り組みにおいてもスピード感が重要であるとの認識のもと、早くやることに徹することで価値向上につなげ、これを社内外にアピールしなければならないと考えています。サステナビリティも企業価値のひとつですが、当社の若い社員の意識も高く、しっかり浸透していると実感しています。

環境面では、CO₂削減エネルギー対策プロジェクトのもと、それぞれの課題にひとつずつ取り組んでいます。廃棄物の削減や、代替原料の探索に加え、歩留まり率の向上にも取り組んでいます。技術、研究開発、製造工程におけるCO₂排出量の削減などカーボンニュートラルの実現に向けた体制を整備し、PETシュリンクフィルムの回収などサーキュラーエコノミーへの移行も段階的に進めています。更には、環境に優しい持続可能な製品開発としてBEV・FCV用製品、省エネ・長寿命ウレタンなどの開発を進めています。

社会貢献では、地域貢献として、サッカーチームFC岐阜や地元の11歳以下のサッカーチームのスポンサーに加え、名古屋大学、岐阜大学への研究助成を行っています。また、TOYOTA GAZOO Racingの支援を通して、モータースポーツの

振興にも注力しています。

DXの推進では、グループ全体の生産工程管理の標準化を目的とした基幹システム（ERP）の刷新に着手しました。全世界で統一された基準を取り入れることで、いつでも、どこでも、同じ品質のモノづくりの実現を目指します。同時に、これまで国内で成果を上げてきたRPAを海外拠点にも展開し、社員がより付加価値の高い仕事に集中できる環境づくりにも積極的に取り組んでいく計画です。

最後にガバナンス強化では、シーシーアイでは全従業員を対象としたコンプライアンス教育を毎月実施し、不正行為の防止など、従業員のコンプライアンス意識の啓発に努めています。また、リスクマネジメントにおいては、昨今のサイバー被害の拡大を受け、現在、業界団体の指針に基づいた情報セキュリティ対策を段階的に進めており、グループの情報セキュリティ強化に取り組んでいます。

「企業理念探究プロジェクト」を通して、 企業理念を見直し、次世代人材を育成

当社では2022年度より、「企業理念探究プロジェクト」を立ち上げ、あらためて企業理念を見直し、新たな行動指針の策定を進めています。これは、企業価値とは何かを探究し、パーパス（存在意義）を見つめ直そうという試みです。社会経済が大きく変化する中で、仮に私たちの業態が変わったとしても、その変わらぬ存在意義とは何かを追求するものです。トップダウンではなく、社内の20代後半から40代前半の選抜メンバーが主体となって、会社の根幹となる企業理念を再構築し、これから先30年、50年、語り継がれる新しい価値を見つけ、言語化し、「理念の伝道師」となって浸透を図る取り組みでもあります。このプロジェクトを通して、社会、企業、組織にある課題や問題点を探り、新たな価値観に基づいて自ら行動に移すことができる、将来のシーシーアイを担う人材へと成長を目指します。

私自身としては、次世代の社員の意見を聞き取ったという想いもありました。これまでトップダウン型の傾向があり、自分たちの想いを言えなかったのではないかとこの考えもあって、この試みを始めました。これら若い世代の人たちが、これからの会社を背負っていくのだということを理解してもらったのです。今後、5年、10年を経て、現在の試みを体現し、歴史を学んで更に新しい世代の人たちに伝えること、これが伝道師です。現場でやるべきこと、やりたいこと、何が目的かをしっかりと考えてもらいたい、そして自分たちで決めたことを確実に実行することが重要です。プロジェクトを開始して以来、私自身、メンバーが目に見えて成長していると実感しています。戦略のことを自分たちで考えるようになり、経営視点でものを考えるようになったという手応えを感じています。更に重要な



のは、決めたことを実行できるかということ。そして、それを新しい世代に伝えていくことです。そのために、また新しいプロジェクトを立ち上げようと考えています。

新たな世代とともに、企業の持続的発展を目指す

実は、私はこの「企業理念探究プロジェクト」で決めたことが、いずれ変化してもかまわないと考えています。どんなに追求しても100点満点はなく、本来、理念を決めることが目的ではないからです。目的を明確にした上で、企業の持続的発展を目指すこそが大切だと考えています。私たちは、こうした取り組みを続けることで、ありがたい姿として、社員やその家族の皆さんが誇りにできる、そして地域や社会から愛される会社となり、ともに成長したいと考えています。ステークホルダーの皆様には、私たちの活動にご理解をいただき、ぜひ、ご期待いただきたいと思います。

代表取締役社長/CEO

岡部 鉄也

※KPI：重要業績評価指標